



50th Anniversary

千里高校の これまでとこれから

学校の創立と国際教養科の設置

千里高校は1967年（昭和42年）の開校以来、「真理と正義を愛する人間の育成、争く直く明るい性格の陶冶」「信頼と敬愛の上にたつ人間の育成、人間のふれあいを通じての情操の陶冶」という教育方針のもと、高い志と倫理観を備えた有意な人材の育成に取り組んできました。

平成2年には、国際教養科2学級を併置し、平成14年には、文部科学省より「スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール（SELHi）」の研究指定を受け、全ての生徒を対象とし、国際的課題について英語により発表・討論する力を高めるための効果的な指導法等の開発に取り組みしました。本校はそれらを現在まで継承し、ICT機器の活用等によりその効果を高めつつ、更新と改善に努めています。

国際・科学高校への改編

平成17年度には、国際・科学高校に改編し、国際文化科と総合科学科の2学科を設置しました。本校はこの改編を機に、コミュニケーション・ツ-

ルとして外国語と情報機器を活用する力と、科学技術、経済、文化等の分野においてグローバルに活躍するために求められる基礎的な資質と学力を育成するため、次の課題に取り組みしました。一つは、より多くの生徒に対し高い水準の国際教育と英語教育を行うための指導法の開発です。二つめは、総合科学科における指導法の開発です。三つめは、文・理両方の学力とともに、それぞれの専門性も向上させるという課題です。そのため、本校は研究指定等*を一層活用することとしました。平成22年には文部科学省より、スーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）の研究指定を受け、科学技術系人材育成の裾野の拡大に取り組むとともに、課題研究の指導法の工夫改善に取り組みしました。

成果

取組みの成果は、様々な面に現れています。学校教育自己診断をみると、「将来の進路や生き方について考える機会がある」「本校は国際性を養う機会が多い」との問に対し、80%以上の生徒が肯定的回答を寄せています。多くの生徒が希望の進路を実現しており、近年では海外の難関大学にも合格者が出ています。課題研究においても

顕著な成果が出ており、平成20年度と25年度の2回、高校化学グランドコンテストにおいて文部科学大臣賞を受賞しました。

また、台湾国際科学フェア出場（25年度）、VEX Robotics Challenge国内優勝（26年度）、高校生科学技術チャレンジ特別協賛社賞（26年度）、インテル国際学生科学技術フェア（Intel ISEF）出場（27年5月）、野村総合研究所主催小論文コンテスト優秀賞（25年度）、英語・ドイツ語・スペイン語スピーチ等コンテストにおける上位入賞などがあげられます。

現在の特色ある取組み等

現在の主な特色ある取組み等は、次の通りです。

- (1) 2年生全員が、オーストラリア（国際文化科）・ハワイ島（総合科学科）において研修旅行を実施しています。
- (2) 帰国生が両学科合わせて毎年度9名入学するとともに、長短期の留学生が毎年度多数いることから、この条件を生かし、生徒が多様性尊重の精神を養えるよう指導しています。
- (3) 課外では90%以上の生徒がクラブに加入するとともに、全国大会出場など優れた実績も残しています。